

エコアクション21

環境経営レポート

株式会社 大樹工業



2024年度

運用期間 2024年 1月 1日 ~ 2024年12月31日

2025年02月15日 発行

【 目 次 】

項目No	項 目 名	レポートの 要求No	ページ
	表 紙	—	1
	目 次	—	2
1	組織の概要及び対象範囲	①②	3
	1) 事業者名及び代表者名 2) 所在地 3) 環境管理責任者及び事務局及び連絡先 4) 事業創立年月日 5) 事業活動の内容 6) 事業規模 7) 推進組織図 8) 対象範囲		
2	環境経営方針	③	4
3	環境経営目標	④	5
4	環境経営目標の実績	⑥	6
5	環境経営計画と取組結果とその評価	⑤⑥ ⑦	7
6	次年度の環境経営目標及び環境経営計画	⑦	8
6－2	次年度の環境経営目標〔詳細〕	⑦	8－2
7	環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに 違反、訴訟等の有無	⑧	9
8	代表者による全体評価と見直しの結果	⑨	9

※レポートの要求Noとは、建設業者向けガイドライン・環境活動レポートの
レポート作成の番号①～⑨のこと。

1. 組織の概要及び対象範囲

1) 事業者名及び代表者名

株式会社 大樹工業
代表取締役 黒木和文

2) 所在地

本社事務所 〒883-0034 宮崎県日向市 富高5059番地1
資材置場 〒883-0034 宮崎県日向市 富高3785番地
川南支店 〒889-1301 宮崎県児湯郡 川南町大字川南18779-5

3) 環境管理責任者及び事務局、担当者氏名・連絡先

EA-21 責任者 園田宗太
EA-21 事務局 園田ゆかり

連絡担当者

TEL 0982-53-4580
E-mail daikikougyou@kkd.biglobe.ne.jp

4) 事業創立年月日

2006 年 11 月 1 日 [創立から 18 年]

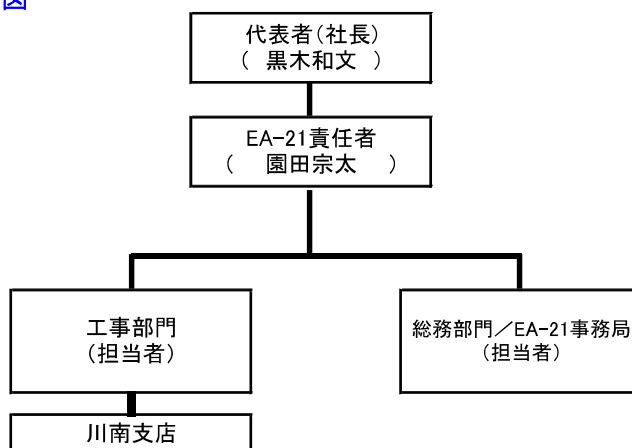
5) 事業活動の内容

建設業（土木工事業、とび・土工工事業、舗装工事業、大工工事業）

6) 事業規模

項目	単位	2021年	2022年	2023年	2024年
工事件数	件	26	18	18	23
従業員数	人	10	10	10	10
床面積	m ²	48	48	48	48
敷地面積	m ²	92	92	92	92

7) 推進組織図



8) 対象範囲 (全組織・全活動)

組織・・・ 本社事務所、資材置場、川南支店

活動・・・ 建設業（土木工事業、とび・土工工事業、舗装工事業、大工工事業）

2. 環境経営方針

環 境 経 営 方 針

株式会社大樹工業は、地域の豊かな自然と景観を守り、次世代へ引き継ぐ為に、一人一人の出来る事を、技術や事業計画で生かし、更に環境に配慮した行動に努め、地域や社会に貢献します

- 1 当社は、建設業活動を通じて環境経営目標・環境経営計画を定め継続的な改善に努めます。
- 2 関連する環境の法規制を遵守するとともに、行政機関・団体・地域等の要請に協力します。
- 3 事業活動に於いて環境に与える影響を削減するため、次の事項に対して優先的に取り組みます。
 - ① 電力、燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減
 - ② 生産工程から排出される一般及び産業廃棄物の削減
 - ③ 水資源の節水
 - ④ 地域での社会貢献活動
 - ⑤ 環境に配慮した施工及び資材・機械等の使用
- 4 人材不足や社員の高齢化が進む中で、若手社員の育成に努める

この環境経営方針は当社全従業員に周知徹底するとともに一般に公開します

2021年12月22日制定
株式会社 大樹工業

代表取締役 **黒 木 和 文**

3. 環境経営目標

当社の第一次中期(2022～2024年度)の環境経営目標は、環境負荷の調査により、2021年度(2021年1月～2021年12月)のデータを基準値として設定しました。

取組み項目 (目標項目)(単位)		実 施 区	年 度 別 環 境 目 標					
			基準値 2021年度 の実績	2022年度 (2022年1月～ 2022年12月)	2023年度 (2023年1月～ 2023年12月)	2024年度 (2024年1月～ 2024年12月)		
1. 二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO ₂)		事務所	632.6	626.3	623.2	620.0		
		現場	54,367.5	53,823.6	53,551.9	53,280.1		
		全社	55,000.1	54,449.9	54,175.1	53,900.1		
省エネルギー項目	①電気使用量の削減 (kWh)		*削減率%⇒		1.0	1.5	2.0	
			事務所	1,318.0	1,304.8	1,298.2	1,291.6	
			現場	0.0	0.0	0.0	0.0	
			全社	1,318.0	1,304.8	1,298.2	1,291.6	
	②ガソリン使用量の削減 (L)		*削減率%⇒		1.0	1.5	2.0	
			事務所	0.0	0.0	0.0	0.0	
			現場	13,588.1	13,452.2	13,384.3	13,316.3	
			全社	13,588.1	13,452.2	13,384.3	13,316.3	
	③軽油使用量の削減 (L)		*削減率%⇒		1.0	1.5	2.0	
			事務所	0.0	0.0	0.0	0.0	
			現場	8,853.9	8,765.3	8,721.1	8,676.8	
			全社	8,853.9	8,765.3	8,721.1	8,676.8	
	2 廃棄物の削減	①. 可燃ごみの削減 (kg)		全社	2022年度実績 56.7kg	分別・計量で 実績把握 56.7kg	55.8	55.6
		②. 建設副産物再資源化率 の向上		現場	4.0トン [100.0%]	環境経営計画を遵守し、 再資源化率95%以上を目指す		
3. 水資源使用量の削減 (m ³)		*削減率%⇒		1.0	1.5	2.0		
		事務所	75.9	75.1	74.8	74.4		
		現場	0.0	0.0	0.0	0.0		
		全社	75.9	75.1	74.8	74.4		
4 有益な環境活動	4-1. 環境配慮型施工の推進 (現場周辺に配慮して 創意工夫した事を含む)	全社	現場周辺に 配慮した活動	環境経営計画 の遵守	環境経営計画の 遵守	環境経営計画の 遵守		
	4-2. 環境保全活動の推進 (ボランティア活動)	全社	3 回	3回以上/年	3回以上/年	3回以上/年		

*2021.12.20 作成要点 ・2021年度の実績を基準値として、削減率を1.0% 1.5% 2.0%として3ヶ年の目標値を設定した。
・全社CO2排出量は、電気以外は2017年版環境への負荷チェックと同値の排出係数で算出した。
・電気のCO2排出係数は、2022年(令和4年)1月7日 環境省公表・九州電力調整後のメニューBの係数を採用。
*2023.1.10 作成要点 ・2022年度の一般廃棄物の実績(可燃ゴミ)を把握したので、2023年度、2024年度の目標値を設定した。

※現場の電気使用量、事務所のガソリン使用量は目標管理から除外していますが、環境負荷は把握します。
※化学物質(PRTR制度対象物質)の使用。購入ともありません。
※二酸化炭素排出量は下記の係数に基づき設定した (排出量(kg-CO₂) = 使用量(A) × 排出係数(B))

	単位	使用量(A)	排出係数 (B)	
購入電力	kWh		0.480	(kg-CO ₂ /kWh)
ガソリン	L		2.32	(kg-CO ₂ /L)
軽油	L		2.58	(kg-CO ₂ /L)

4. 環境経営目標の実績

環境経営目標に対する達成状況は以下の通りです。

実績値は、2024年度期間(2024年1月～2024年12月)の12ヶ月間と、目標値は基準年度2021年度の同期間の削減率から算出した合計の値と比較する。

取 組 項 目		2024年度目標値 (2024年1月～ 2024年12月)	2024年度 実績 (2024年1月～ 2024年12月)	達成率	判定	
1. 二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO ₂)	事務所	620.0	1,223.5	50.7%	×	
	現場	53,280.1	104,558.9	51.0%	×	
	全社	53,900.1	105,782.4	51.0%	×	
	*現場の電気使用量、灯油使用量を含めた総排出量 106,969.1 kg-CO2					
	①電気使用量の 削減 1. 0% (kWh)	事務所	1,291.6	2,549.0	50.7%	×
		現場	0.0	0.0	－	－
		全社	1,291.6	2,549.0	50.7%	×
	②ガソリン使用量の 削減 1. 07% (L)	事務所	0.0	0.0	－	－
		現場	13,316.3	19,750.0	67.4%	×
		全社	13,316.3	19,750.0	67.4%	×
	③軽油使用量の 削減 1. 0% (L)	事務所	0.0	0.0	－	－
		現場	8,676.8	22,767.0	38.1%	×
		全社	8,676.8	22,767.0	38.1%	×
2. 廃棄物の削減 ①一般廃棄物の廃棄量の削減 (kg) ②建設副産物の再資源化率 の向上	①全社	55.6	37.6 kg	147.8%	○	
	②現場	95%以上	遵守 (790 kg/ 89.9 %)	94.6%	×	
3. 水資源使用量の削減 2.7% (m ³)	全社	74.4	59.0	126.1%	○	
4-①環境配慮型施工の推進	全社	環境経営計画 の遵守	遵守しました	－	○	
4-②環境保全の取組推進 (ボランティア活動)	全社	3回以上／年	3 回	100.0%	○	

※ 購入電力のCO₂排出係数は、九州電力の調整後のメニューBの排出係数0.480(kg-CO₂/kWh)を使用しました。

※ 達成率は、項目1～3が、目標/実績 100%以上が評価○で、項目4～が、実績/目標で100%以上が、評価○とする。

※目標未達の背景と第二次の見直し

当社ではエコアクション21の取組みに当たり、2021年度(1月～12月)の実績を基準値として、2022年度1.0%の削減目標、2023年度1.5%の削減目標、2024年度2.0%の削減目標を設定して活動してきたが、2021年度の業績基準では、2022年度1.08倍、2023年度で1.54倍、2024年度で2.17倍と業績(受注)が大幅に伸び、電気、燃料の使用量が増加し特に2024年度は受注増加と更に災害関連の復旧工事が重なったこと、雨量が多く重機・ポンプを頻繁に使用した結果、目標値をはるかに超える目標未達となった。この3年間の実績と今後の伸びを考慮し次年度(2025年度)からの第二次(2025～2027)の基準値を見直し、現状に沿った適正な基準値と目標値を設定して、第二次中期の活動に進みたい。

5、環境経営計画と取組結果とその評価

2024年1月1日から～2024年12月31日までの環境経営計画と取組結果は以下の状況です。

[実施スケジュールの年間とは、1月～12月までとする。]

臨時期間の環境経営計画			取組結果と評価					
取組項目と活動内容		実施区	実施スケジュール	取組結果	評価			
1・二酸化炭素排出量の削減	【電気使用量の削減】 ①不在箇所、不要箇所及び昼休み時は消灯している。 ②エアコンフィルターを定期的に清掃している。 ③パソコン、コピー機等のOA機器は省電力設定に設定している。 ④スポットライトなどで効率よく照明している。	総務部門 工事部門	年間	元請工事が増えたことにより、事務作業が増加し電気使用量は目標達成できなかったが、常に節電は意識して行動できた。しかし、エアコンのフィルター清掃が十分でないので、更にこまめに行うと良い。	○ ○ ○ ○			
	【ガソリン使用量の削減】 ①現場への相乗りを推進している。 ②運搬計画や経路を見直し、エネルギー消費の少ない運搬を検討する	総務部門 工事部門	年間	遠方の現場が多く、ガソリン使用量が増えてしまったが、相乗りはいつも行い取り組めたので良かった。	○ ○			
	【軽油使用量の削減】 ①創意工夫で工期短縮を図っている ②作業規模や工程に応じた建設機械等の種類や規格を用いて エネルギーの消費を抑えている	総務部門 工事部門	年間	軽油使用量も増加してしまったが、受注増加に伴うものなので、引き続き軽油使用量の削減に努める。	○ ○			
	2・廃棄物の削減	【2-1 一般廃棄物の削減】 ①ー1分別を徹底し最終処分(可燃ゴミ)の削減を目指す ①ー2コピーは裏紙使用や両面コピー、縮小・集約コピーに努める ①ー3ポーターカートリッジや用紙梱包箱などは納入業者に持ち帰ってもらう	総務部門 工事部門	年間	両面コピー、詰替えは徹底できた。	○ ○ ○		
		【2-2 建設副産物の再資源化率向上】 ②-1全ての建設副産物は決められた方法で廃棄する ②-2現場で発生する混合廃棄物は、できるだけ分別してリユース、リサイクルする（廃棄ボックスの数に留意する） ②-3資材包装物は業者へ持ち帰りを依頼する。 簡易包装のものを優先購入する	総務部門 工事部門	年間	産業廃棄物は適正に処理できた。 梱包材も最小限にとどめ、持ち帰ってもらった。	○ ○ ○		
		3水使用量	【水資源使用量の削減】 ①水道配管からの漏水を定期的に点検する(全蛇口を止めて水道メーターの動きを確認する) ② 車両や建設機械の洗車は必要最小限にとどめ、できるだけ雨水を利用する	総務部門 工事部門	年間	水道配管からの漏水点検が不十分だったので、3か月に一度漏水点検を実施した。 点検を定期的に行う事が習慣づけられて良かった。	○ ○	
			4・環境改善活動	【4-1 環境配慮型の取組推進】 ①環境配慮型の建設機械を使用する。 〔排ガス対策型、低騒音型、低振動型、エコ操作型等〕 ②現場の環境上の緊急事態を想定し予防措置を行い、対応手順を作成して事前の訓練を行う。	総務部門 工事部門	年間	BHを頻繁に使用するが、必ず排ガス対策型、低騒音型、低振動型を使用できた。	○ ○
				【4-2 環境保全の取組推進(ボランティア活動)】 ①事務所周辺や現場付近は常に清掃し、整理整頓に努める。 ②植林等の環境ボランティアに積極的に参加する。	総務部門 工事部門	年間	事務所、土場の清掃を行い常に整理整頓ができています。	○ ○

6. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

次年度(2025年度)の環境経営目標は、次ページに掲載しています。
また環境経営計画は、下記の通り取組みます。

[実施スケジュールの年間とは、1月～12月までとする。]

次年度の環境経営計画				次年度の 環境経営目標
取組項目と活動内容		実施区	実施 スケジュール	
1・二酸化炭素排出量の削減 【省エネルギー活動の推進】		EA21 責任者	年間	次年度(2025年度)の環境経営目標は、次ページ(8の2)に詳細を掲載しています
省エネ 活動	【電気使用量の削減】 ①不在箇所、不要箇所及び昼休み時は消灯している。 ②エアコンフィルターを定期的に清掃している。 ③パソコン、コピー機等のOA機器は省電力設定に設定している。 ④スポットライトなどで効率よく照明している。	総務部門 工事部門	年間	
	【ガソリン使用量の削減】 ①現場への相乗りを推進している。 ②運搬計画や経路を見直し、エネルギー消費の少ない運搬を検討する	総務部門 工事部門	年間	
	【軽油使用量の削減】 ①創意工夫で工期短縮を図っている ②作業規模や工程に応じた建設機械等の種類や規格を用いて、エネルギーの消費を抑えている	総務部門 工事部門	年間	
2・廃棄物の削減	【2-1 一般廃棄物の削減】 ①-1分別を徹底し最終処分(可燃ゴミ)の削減を目指す ①-2コピーは裏紙使用や両面コピー、縮小・集約コピーに努める ①-3コピー用紙・カートリッジや用紙梱包箱などは納入業者に持ち帰ってもらう	総務部門 工事部門	年間	
	【2-2 建設副産物の再資源化率向上】 ②-1全ての建設副産物は決められた方法で廃棄する ②-2現場で発生する混合廃棄物は、できるだけ分別してリユース、リサイクルする(廃棄ボックスの数に留意する) ②-3資材包装物は業者へ持ち帰りを依頼する。簡易包装のものを優先購入する	総務部門 工事部門	年間	
3 水使用量	【水資源使用量の削減】 ①水道配管からの漏水を定期的に点検する(全蛇口を止めて水道メーターの動きを確認する)、 点検の翌月に再度確認する。 ②車両や建設機械の洗車は必要最小限にとどめ、できるだけ雨水を利用する	総務部門 工事部門	年間	
4・有益な環境稼働	【4-1 環境配慮型の取組推進】 ①環境配慮型の建設機械を使用する。 〔排ガス対策型、低騒音型、低振動型、エコ操作型等〕 ②現場の環境上の緊急事態を想定し予防措置を行い、対応手順を作成して事前の訓練を行う。	総務部門 工事部門	年間	
	【4-2 環境保全の取組推進(ボランティア活動)】 ①事務所周辺や現場付近は常に清掃し、整理整頓に努める。 ②植林等の環境ボランティアに積極的に参加する。	総務部門 工事部門	年間	

※ 活動内容は、不具合が生じたら期間の途中でも見直しがあります。

6-2. 次年度の環境経営目標

当社の第二次中期（2025～2027年度）の環境経営目標は、環境負荷の調査により、2022～2024年度の実績を基準値として、削減率1.0% 1.5% 2.0%で第二次3ヶ年の目標値を設定した。

取組み項目 （目標項目）（単位）		実施区	年 度 別 環 境 目 標			
			基準値 2022～2024年度 の実績	2025年度 （2025年1月～ 2025年12月）	2026年度 （2026年1月～ 2026年12月）	2027年度 （2027年1月～ 2027年12月）
省エネルギー項目	1. 二酸化炭素排出量の削減 （kg-CO ₂ ）	事務所	1,220.8	1,208.5	1,202.4	1,196.3
		現場	115,407.1	114,253.1	113,676.0	113,099.0
		全社	116,627.9	115,461.6	54,175.0	114,295.3
			*削減率%⇒	1.0	1.5	2.0
	①電気使用量の削減 （kWh）	事務所	2,570.0	2,544.3	2,531.5	2,518.6
		現場	0.0	0.0	0.0	0.0
		全社	2,570.0	2,544.3	2,531.5	2,518.6
			*削減率%⇒	1.0	1.5	2.0
	②ガソリン使用量の削減 （L）	事務所	0.0	0.0	0.0	0.0
		現場	20,447.0	20,242.5	20,140.3	20,038.1
		全社	20,447.0	20,242.5	20,140.3	20,038.1
			*削減率%⇒	1.0	1.5	2.0
	③軽油使用量の削減 （L）	事務所	0.0	0.0	0.0	0.0
		現場	26,345.0	26,081.6	25,949.8	25,818.1
		全社	26,345.0	26,081.6	25,949.8	25,818.1
2 廃棄物の削減	①. 一般廃棄物の削減 （kg） （可燃ゴミ削減を目標管理）	全社	61.9kg	61.3	61.0	60.7
	②. 建設副産物再資源化率 の向上	現場	1569kg 〔96.5%〕	環境経営計画を遵守し、 再資源化率95%以上を目指す		
3. 水資源使用量の削減 （m ³ ）			*削減率%⇒	1.0	1.5	2.0
		事務所	69.6	68.9	68.6	68.2
		現場	0.0	0.0	0.0	0.0
		全社	69.6	68.9	68.6	68.2
4 有益な環境活動	4-1. 環境配慮型施工の推進 （現場周辺に配慮して 創意工夫した事を含む）	全社	現場周辺に 配慮した活動	環境経営計画 の遵守	環境経営計画 の遵守	環境経営計画 の遵守
	4-2. 環境保全活動の推進 （ボランティア活動）	全社	3. 6 回	3回以上/年	3回以上/年	3回以上/年

*2025.2.1 改訂要点 ・2022～2024年度の実績を基準値として、削減率を1.0% 1.5% 2.0%として第二次3ヶ年の目標値を設定した。
・全社CO2排出量は、電気以外は2017年版環境への負荷チェックと同値の排出係数で算出した。
・電気のCO2排出係数は、2024年(令和6年) 7月19日 環境省公表・九州電力調整後のメニューBの係数を採用。
・現場の電気使用量、事務所のガソリン使用量は目標管理から除外していますが、環境負荷は把握します。

※化学物質(PRTR制度対象物質)の使用。購入ともありません。
※二酸化炭素排出量は下記の係数に基づき設定した（ 排出量(kg-CO2) = 使用量(A)× 排出係数(B)）

	単位	使用量(A)	排出係数 (B)	
購入電力	kWh		0.475	(kg-CO ₂ /kWh)
ガソリン	L		2.32	(kg-CO ₂ /L)
軽油	L		2.58	(kg-CO ₂ /L)

7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、訴訟等の有無

当社の事業に係る主な環境関連法規は、担当者が定期的にWeb（環境省ホームページの間基準・法例等）の改定履歴や建設業協会等からのお知らせ等から年次の運用開始時に見直しと取り纏めを行ってます。

尚、環境関連法規の遵守状況確認を実施した結果、違反及び監督官庁からの指摘も、地域住民からの訴訟もありませんでした。

環境関連法規の遵守状況の確認と評価は、3ヶ月に1回実施し、「環境関連法規の取り纏め(兼)遵守評価表」に記述している。現場での遵守状況は、月1回の安全パトロールや会議等を通じて常に確認しています。

〔当社の主な環境関連法規と遵守状況は下記の通りです。〕

主な関連法規名	遵守事項	遵守評価
廃棄物の処理及び清掃に関する法(廃掃法)	委託契約の締結、マニフェストの交付	遵守
	回収・照合確認(発行後B2,D票90日E票180日以内) A表の5年間保管	遵守
	産業廃棄物管理票交付等状況報告(6月30日までに知事へ報告)	遵守
	保管場所の掲示板設置	遵守
再生資源利用省令	・再資源利用計画書・実施書の作成 ・再資源利用促進計画書・実施書の作成	遵守
建設リサイクル法	発注者への書面による計画等説明、完了報告	遵守
	工事着手する日の7日前までに必要事項を都道府県知事に届け出	遵守
	分別解体、再資源化促進、再資源化により得られる資材の使用	遵守
フロン排出抑制法	・定格出力7.5kW未満の業務用エアコン等の簡易点検実施 (建設機械搭載のエアコンを含む) [事務所エアコンが対象]	該当工事なし
騒音規制法	・知事へ7日前までに届け出 ・作業敷地境界にて85デシベル以下	該当工事なし
振動規制法	・知事へ7日前までに届け出 ・作業敷地境界にて75デシベル以下	該当工事なし

8. 代表者による全体評価と見直しの結果

評価項目	代表者による評価と指示(○当年度の評価、●次年度への指示)
①環境経営計画の実施状況と環境経営目標の達成状況	○環境経営計画(兼)実施状況管理表によると12ヶ月間の環境経営計画はほぼ実施されている。 ●次年度(2025年度)は第二次中期の活動内容を周知し実施していただきたい。 *-----* ○環境経営目標達成状況管理表によると、第一次中期は基準値は2021年度実績を採用し目標値を設定したが、年々工事量や災害関連の工事内容が多かった事から、電気と燃料の使用量が目標値を超え個々の目標と全社CO2削減目標を達成できなかった。 ●次年度は第二次中期の策定になるが、第一次の3年間の実績から新基準値、削減率、環境経営目標の精度を上げて設定し目標達成を目指し活動していただきたい。
②環境関連法規等の遵守状況	○環境関連法規の取り纏め(兼)遵守評価表で確認した、当社に関連する法規等はほぼ取り纏められ全て遵守していることを評価する。 ●次年度も遵守の基業務にあたること。
③外部からの環境に関する苦情や要望等	○環境情報記録表で確認した、当期間においては苦情、クレームは無かった。またボランティア活動は3回実施した。 ●今後も継続し、もし苦情・クレームが発生したら関係者で速やかに対処し、その結果を社長へ報告すること。
④その他全般について	○エコアクション21を取り組み3年が経過した、まだ不十分な点もありましたが、データ等も見えてきた点を評価したい。 ●次年度は2025年度の目標と活動計画を更に周知し目標達成に繋げていただきたい。
⑤環境経営方針	○ガイドライン2017年版の要求事項を満たす方針を作成した。 ●次年度も現行の方針を継続する。
⑥実施体制	○当初策定した現行体制で特に不具合は生じなかった。 ●次年度も現行体制を継続する。